

新しく生まれ変わった 長野県立美術館

〈ランドスケープ・ミュージアム〉



水辺テラス

利用案内

開館時間 [美術館] 9:00~17:00 (展示室入場は16:30まで)
[屋上広場] 原則として夜間及び休館日は閉鎖

休館日 毎週水曜日(祝日の場合は翌木曜日)
年末年始(12/28~1/3)

観覧料 コレクション展(本館・東山魁夷館 共通)

観覧料	個人	団体(20名以上)
一般	700円	600円
大学生及び75歳以上	500円	400円
高校生以下又は18歳未満	無料	無料

- ・本館コレクション展を開催していない日は一般500円(400円)、大学生及び75歳以上300円(200円)()内は20名以上の団体割引及び各種割引
 - ・割引の併用はできません。
 - ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料です。
 - ・大学生及び75歳以上の方は身分が確認できるものをご提示ください。
- ※企画展は展覧会により料金が異なります。

問い合わせ先



長野県 県民文化部 文化政策課

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2
新県立美術館の整備に関する情報(長野県公式ホームページ)
<http://www.pref.nagano.lg.jp/seibun/shinanobijutsukan.html>
ホーム > 教育・子育て > 文化・芸術 > 文化・芸術 > 信濃美術館整備に関する情報
TEL: 026-235-7282 FAX: 026-235-7284
E-mail: geijutsu@pref.nagano.lg.jp

※このリーフレットの内容は、令和3年(2021年)3月現在のものです。
今後変更となる可能性があります。

アクセス

JR長野駅善光寺口バス乗り場①から、アルピコ交通バス(11系統善光寺経由宇木行/16系統善光寺・若槻団地経由若槻東条行/17系統善光寺・西条経由若槻東条行)で「善光寺北」下車(所要時間約15分)。バス進行方向徒歩5分。

JR長野駅善光寺口バス乗り場①及び⑦の善光寺経由のバス、もしくは善光寺行き「びんずる号」で「善光寺大門」下車(所要時間約13分)、表参道を善光寺本堂方向に歩き、本堂を右方向、城山公園へ徒歩10分。

長野県立美術館には、一般来館者のための駐車場はございません。

併設の東山魁夷館北側に隣接する駐車場は、大型バス、障がいのある方など「信州パーキング・パーミット制度」にて指定された方の専用駐車場です。

美術館近辺の駐車場は混雑が予想されます。公共交通機関のご利用をお願いします。



建築について

美術館本館は、平成29年(2017年)に設計者選定プロポーザルを経て選定された宮崎浩/プランツアソシエイツの設計により、令和2年(2020年)12月に完成しました。旧美術館と比較して規模は3倍以上となり、大きさや性格の異なる4つの展示室を備える他、アートライブラリーなど調査・研究施設も充実しています。建築は、以下の3つのコンセプトに基づいて計画されています。

ランドスケープ・ミュージアム

善光寺側から東側道路に至る高低差を活かし、建物が突出することなく、周辺の風景の中に溶け込むことを意図しています。その上で、城山公園全体の歴史と将来像を考えながら、公園だけではなく、善光寺東公園や東側に位置する神社の社との連続性を意識して、ランドスケープと建築を一体的に計画しました。

ユニバーサルデザイン

高低差のある地形を活かし、公園と1階、南側道路と2階、さらに東側道路と3階を接続することで、地階を除くすべての階が水平移動のみで入館可能です。年齢や障がいの有無に関わらず、すべての人々が美術に親しむことができます。

「屋根のある公園」しなのスクエア

新しい美術館は、国宝を含む多様な作品の展示に対応できる「公開承認施設」の条件を満たす一方、県内の美術団体や県民が多目的かつ自由に利用できるスペースへの要望に応え、公園との一体利用も視野に入れた「屋根のある公園」とも呼ぶべき新しいスペース「しなのスクエア」を創出しました。

設計期間中には、設計者も参加したりレーワークショップや県民フォーラムなど、県民参加型で整備を進めてきました。県民との間でなされた活発な意見交換が、新しい美術館の姿に結実しています。また、併設する東山魁夷館(谷口吉生設計)も、建設後30年の時を経て、令和元年(2019年)に全面改修されました。2つの建物の間には、新たにカスケード(水景)が広がる水辺テラスが設けられ、また、館内で行き来ができる連絡ブリッジも新設されています。

設計者から / 宮崎浩

最初に敷地を見た時から、善光寺から城山公園に至る恵まれたロケーションの中で、建物は突出することなく風景の一部となるべきと考えていました。その後、ワークショップ等を通じて、県内の美術団体や利用者から、「作品の鑑賞」はもちろんのこと、自分たちでも多目的かつ自由に利用できるスペースが欲しい、との声が多くあることに気づきました。一方で、県立美術館としては、旧美術館では満たすことのできなかつた「公開承認施設」として展示・収蔵機能の大幅な拡充という大きな目的もありました。そこで、我々は、例のない試みですが、城山公園に開いた「屋根のある公園」と呼ぶ自由な利用が可能なスペースと、「公開承認施設」としての美術館部分とを機能上分離した上で、一体的に整備することとしました。新しい県立美術館は、展示室や収蔵庫など美術館の主要機能をしっかりと護りながら、その外周を公園に向かって明るく開放的な共用部で囲んだ構成となっています。展示室以外のこうしたスペースを、無料ゾーンとして公園の一部のように誰でも利用できるようにすることは、当初からのテーマの一つでもありました。これから、この美術館がどのように使われていくかがとても楽しみです。

建物(本館)の概要

延床面積：11,254.46㎡
構造：鉄筋コンクリート造
+プレストレストコンクリート造
一部鉄骨造
階数：地上3階、地下1階

設計・監理

宮崎浩/株式会社プランツアソシエイツ

建築：株式会社プランツアソシエイツ
担当/吉満聡/原田光子
：株式会社オープンビジョン
担当/齋藤要
構造：株式会社KAP
担当/岡村仁/桐野康則/梅原智洋
設備：株式会社森村設計
担当/細川雅之/川口智之
外構：有限会社オンサイト計画設計事務所
担当/戸田知佐/丹野麗子/張立
サイン計画・色彩計画：株式会社KMD
担当/宮崎桂/堀田博暢
照明計画：株式会社ライティングプランナーズアソシエーツ
担当/窪田麻里/木村光
展示：株式会社丹青社
担当/山森博之/井上佳之/真下政之

施工

建築工事：清水・新津建設共同企業体
空調設備工事：金澤工業株式会社
電力設備工事：協栄電気興業株式会社
衛生設備工事：浅間設備株式会社
弱電設備工事：株式会社TOSYS
外構ほか工事：株式会社守谷商会



東側ポケットパークから本館を見る



屋上広場【風テラス】



本館

館内案内

交流スペース

すべての人が気軽に訪れることができ、アートを紹介したさまざまな交流を生み出す場です。L型の大壁面には、「新美術館みんなのアートプロジェクト」のために新規制作された2組の作家による映像作品を上映しています。

また、展覧会やコレクションをテーマにした造形体験を通して、美術館をもっと身近に感じることができるイベントを定期的に開催します。



オープンギャラリー

交流スペース内にある創作活動のためのスペースです。現代作家による公開制作や県内の地域密着型アートプロジェクトの紹介等、現在進行形の創作活動を紹介していきます。公開制作は作家が一定期間オープンギャラリーに通い、作品を制作し、完成作品の公開を行う企画です。

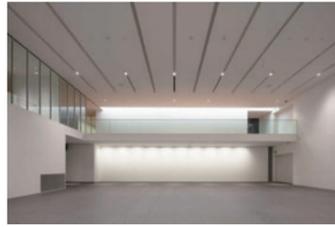
しなのギャラリー

美術団体や自主グループの展覧会等、作品発表のための貸スペースです。可動パネルを使って、規模に応じて分割して利用できます。駐車場から専用エレベータを使って直接作品の搬入・搬出ができます。



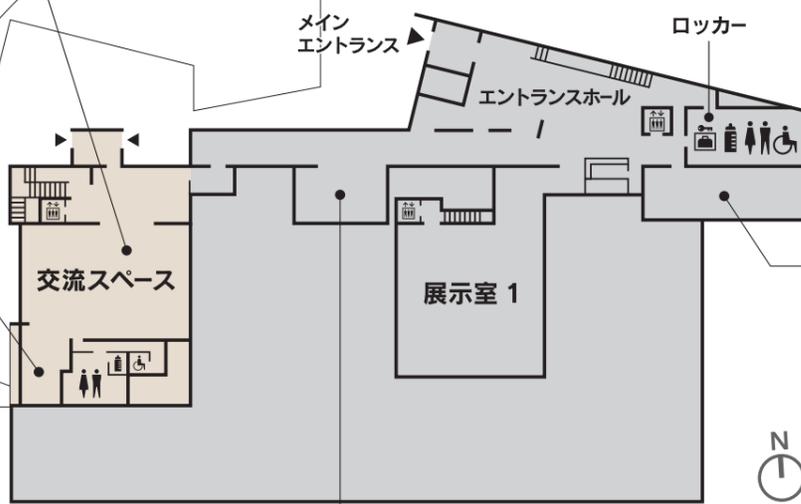
展示室1,2,3

企画展のための展示施設で、国宝・重要文化財の展示を可能とする環境条件を満たす仕様としています。壁面展示ケースや可動展示壁を使ってさまざまな展示計画に柔軟に対応できます。



水辺テラス

本館と東山魁夷館の間に位置する水辺テラスでは、中谷芙二子の「霧の彫刻」が不定期に現れます。



1^F



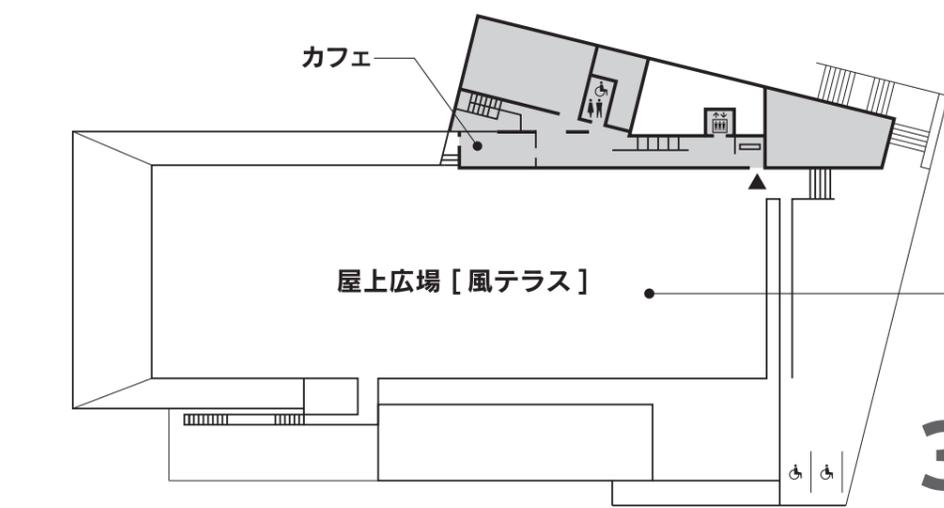
B¹

レストラン

食が奏でる長野と日本、世界の文化体験プレイスをテーマとしたレストランです。眼前に広がる公園と善光寺を眺めながら、和を基調とした演出を取り入れたイタリアンやフレンチメニューを楽しむことができます。



(イメージ)



3^F

カフェ

食を通して芸術に触れるスタイリッシュでカジュアルな憩いの場をテーマに、長野県産食材を使った軽食やドリンク等を提供します。

風テラス

信州の山並みや国宝・善光寺を望む展望広場として、東側道路から直接入ることができます。「信州の新たな風景」をお楽しみください。



(イメージ)

アトライブラリー

美術に関する書籍、展覧会カタログや、美術雑誌等を収集保存し、閲覧や調査・研究のために広く一般に公開する専門図書室です。

アートラボ

視覚に限定しないさまざまな鑑賞が可能な作品を展示することで、新たな発見が生まれる場となることを目指しています。「新美術館みんなのアートプロジェクト」のために新規制作された4名の作家による「触れる美術作品」等を展示します。



2^F

東山魁夷館

本館に先がけ、令和元年(2019年)秋リニューアルオープンしました。



連絡ブリッジ

本館と東山魁夷館とを結ぶ空中ブリッジです。全長は21mあり、水辺テラスの上を横切っています。



コレクション展示室

収蔵品の展示をメインとし、洋画・日本画・工芸など、ジャンルごとの展示を想定した3つのエリアで構成しています。郷土作家の作品、美しい自然に恵まれた信州の風景画を中心にご紹介します。回遊性のある動線により、多様な鑑賞が楽しめる展示空間です。

- 本館
- しなのスクエア
- 東山魁夷館

本館コレクションについて

前身の長野県信濃美術館では、昭和41年(1966年)の開館以来、郷土にゆかりのある芸術家たちの作品と美しい信州の自然を描いた風景画を中心に収集・公開してきました。また、令和元(2019)年度には「信濃テッサン館コレクション」390点を取得しました。半世紀以上にわたって培われた4,600点を超えるコレクションを引き継ぎつつ、令和3年(2021年)の長野県立美術館開館を機に、今後は、現代アートの収集にも力を入れるなど、収蔵品のバリエーションの幅を広げていきます。

コレクション・ポリシー (収集方針)

長野県立美術館では、次の方針で美術作品を収集していきます。

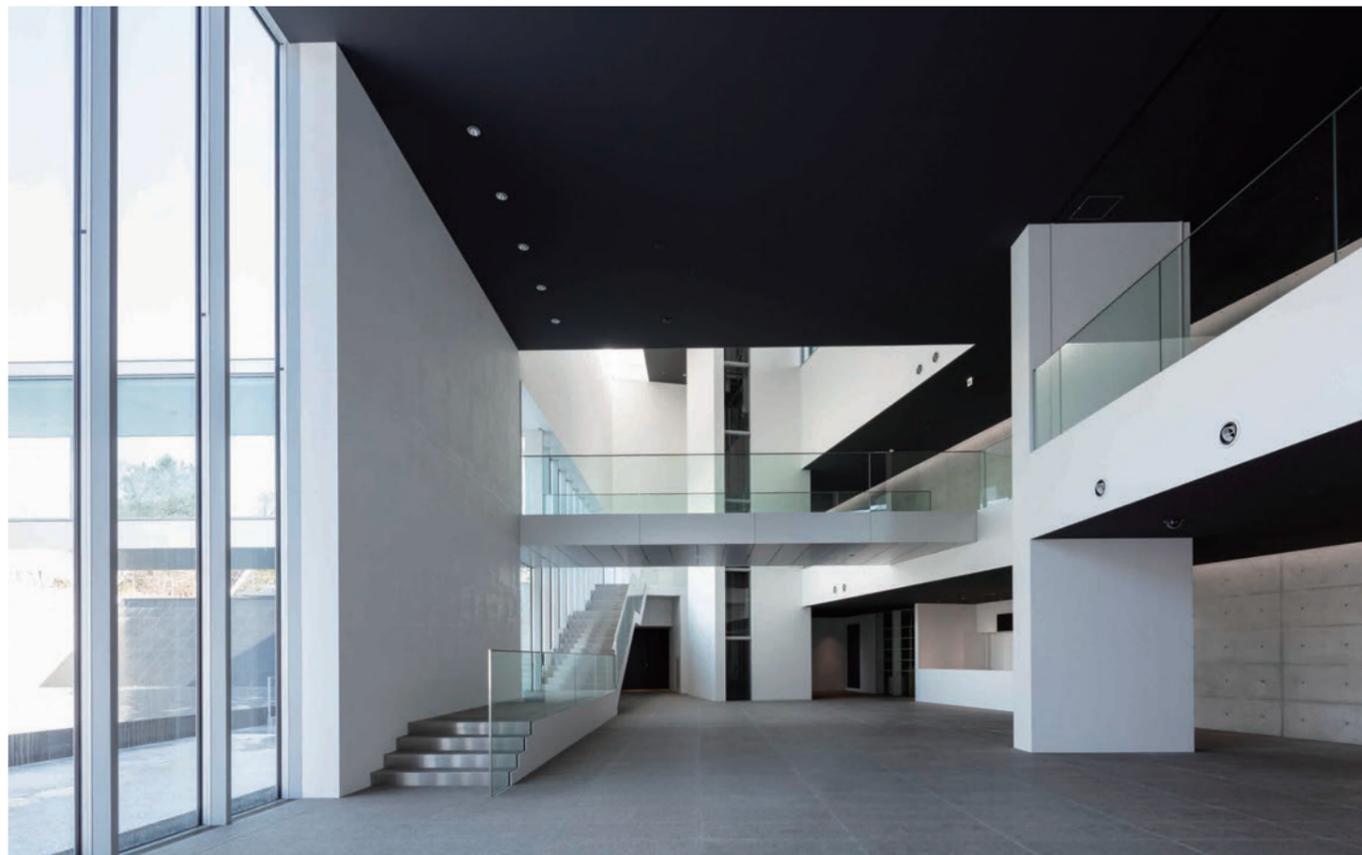
- ・長野県出身または長野県に関係の深い芸術家の優れた近現代美術の作品(絵画、彫刻、水彩、素描、版画、工芸、デザイン、写真、映像など)
- ・美しい山岳風景や精神文化に通じる作品、および「自然」や「自然と人間」をテーマとした優れた近現代美術の作品
- ・日本および海外の近現代美術史上の重要作品
- ・近現代美術史を理解する上で貴重な、散逸を防ぐべき作品群、および美術資料群



コレクション展示室



展示室1



エントランスホール

建築とアート



Photo: Junya Takagi

霧の彫刻

細いノズルから噴出される霧。水辺テラスでは不定期にアーティスト中谷美子子の「霧の彫刻」が現れます。霧はその日の気温や周囲の環境のわずかな変化でさまざまに姿を変えます。カスケードの水流と一体になった幻想的な風景をお楽しみください。



L型に続く映像アート

しなのスクエア1階交流スペースでは、27mに渡るL型の大壁面に映像作品が上映されています。オープンと同時にスタートするのは榊原澄人の映像絵巻とユーフラテスによるユニークな映像作品です。「新美術館みんなのアートプロジェクト」から生まれた映像アートは、以降もコレクションが増えていく予定です。

善光寺との回遊性

県立美術館の建替えに併せて、長野市の協力により、城山公園噴水広場など周辺一帯の整備も実現しました。これにより、善光寺から美術館へ通じる歩道の拡幅や交差点が改良され、人の流れを円滑にする動線を確保しました。今後も善光寺や門前商店会等と連携しながら、相互間の回遊性を高めるための取り組みを進め、善光寺エリア一帯の賑わいの創出を目指していきます。



令和3年(2021年)1月25日撮影



Love Stone Project - Nagano

彫刻家・富長敦也によるプロジェクト。しなのスクエアエントランス前に、新築工事現場の地下6mから掘り出された3個の巨石を設置しました。来館者の皆さんと一緒にこの石の「磨き」の作業をワークショップ形式で行うプログラムを計画しています。

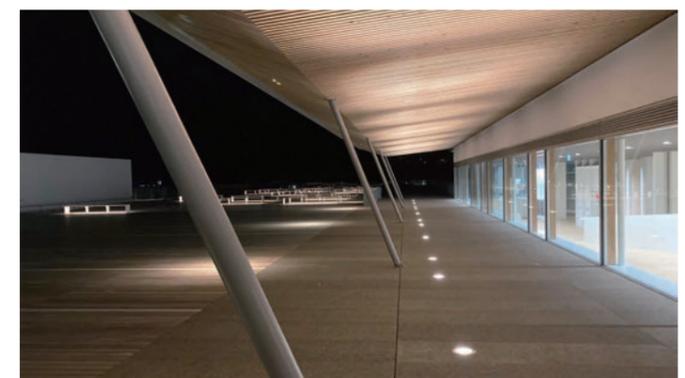
 長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum

美術館のロゴマーク：つながる風景「水鏡」

山や樹木が水面に映りこむ風景。それは長野の風景を象徴するものであるとともに、東山魁夷の絵画でも多数題材となっています。新しいロゴマークは、長野県立美術館の略称NAM(Nagano Prefectural Art Museumの頭文字)を木立に見立て、水面に映りこんだ「水鏡」の造形として生まれました。まさに水と緑の「ランドスケープ・ミュージアム」にふさわしいテーマとなっています。

県産品の利用

長野県は県土の約8割を森林が占める全国有数の森林県であり、県立美術館でも県産材を建築の中に多く取り入れています。メインエントランス正面の外装ルーバーや屋上広場の大庇軒下ルーバー、3階の廊下やカフェの床材などに県産のヒノキ、カラマツ、クリを使用しています。そのほか応接室では、木曾漆器のテーブル、信州紬のアートパネル(壁紙)、長野市松代産の柴石を敷き詰めた登り庭など、地域に受け継がれる伝統的技法や特産品を活かし、信州らしさを演出しています。



県産ヒノキの大庇軒下ルーバー「屋上広場」